

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム かつひろの家

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371200239		
法人名	社会福祉法人 江刺厚生会		
事業所名	グループホーム かつひろの家		
所在地	〒023-1101 岩手県奥州市江刺岩谷堂字反町361-1		
自己評価作成日	令和2年9月17日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①反町の郷福祉パークの中にあり、ISO9001の認証取得。2010年～品質マネジメントを導入。介護事故は、「是正処置報告書」で管理し、効果の確認も行っている。全職員が共通認識を持ち、業務が推敲できるような業務の標準化・効率化を図るとともにリスクマネジメントにつながっている。
- ②昔ながらの行事を行い、季節ごとの楽しみを感じながら、生活を送って頂けるよう支援している。(梅干しづくり・葉焼きづくり・干し柿作り)
- ③ご利用者とともに地元のスーパーや産直へ買い物に出向き地域との交流を図っている。新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組んでいる。敬老会では、反町の郷ご利用者・スタッフと交流している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、今年2月、ヒロ福祉パークから川を越えた反町福祉パークに引っ越した。理念の下に毎年度事業所の年度目標を定め、自然な形で利用者、職員それぞれと、利用者と職員相互の関わりが自然に行なわれ、理念に掲げる利用者本位のケアが実践されている。ISO9001の認証を取得して2010年からは品質マネジメントを導入し、全職員が共通認識を持ってケアや業務の標準化・効率化に努めている。同一法人の特養ホームやデイサービス施設、サービス付き高齢者住宅が周辺にあるほか、事業所内保育園と屋根を同じくし、これら施設の利用者との交流が盛んに行なわれている。職員の寄り添いや声かけを通し、利用者は、かつひろの家を「わが家」として意識して暮らしている。職員は様々な研修に参加しスキルアップを図るとともに、定期的に利用者・家族アンケート調査を実施し、ニーズや満足度を推し量りながら、事業所での生活がより楽しく、より安全で安心なものとなるよう心を砕いて介護に当たっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和2年11月11日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム かつひろの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「ゆっくりと穏やかに のんびりと楽しく 一緒に笑顔で暮らす家」朝食前に唱和し、共有することで、ご利用者の生活に寄り添ったケアにつなげている。	理念に沿って、かつひろの家の「年度目標」を定めて介護に取り組むとともに、日々の唱和により職員の意識高揚を図っている。職員会議・ケアカンファレンス等において、全職員で理念に沿った介護となっているかを振り返りながら、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2020年2/1～反町の郷に引っ越し。新型コロナウイルス感染予防のため、江刺甚句祭り・ヒロノ福祉パーク夏祭りは中止となった。	普段は、散歩や隣接する特養ホーム等の主催行事等に参加する中で、地域の方々や馴染みの方と交流している。移転して間もないが、近隣から野菜などのお裾分けをいただくなど、地域との関係を深めている。特に、隣合わせている保育園の子と交流し、笑顔が絶える日は無い。	新たな地で新たな地域住民の方々との交流が始まっている。これからの長いお付き合いを見据え、行事のお知らせなど、地域への積極的なアプローチを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2020年2/1～引っ越しに伴い、警察署・市役所・各居宅事業所・農協・郵便局などへ移転のお知らせを各部署に出向いて説明した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状態把握。入所・退所、待機者、介護事故の報告。会議にはご利用者・ご家族も参加している。写真を提示し、行事の様子がわかるよう工夫している。	会議には、利用者や家族の代表もメンバーとして参加している。運営状況の報告は、写真を提示しながら行い、理解を得やすく意見等を出しやすい環境づくりに努めている。委員からは、コロナ禍での保育園児との交流方法等について助言をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を通じて連絡・連携を図っている。奥州市の介護相談員年2回来所し、連携を図る中で、ご利用者のより安全安心な生活につなげた。	運営推進会議の場を通じて、指導や助言を得、情報交換を行っているほか、要介護認定申請の際には関係書類を直接持参するなど、普段から市担当者との関係性を深めている。昨年実施した水害対策訓練に関連し、防災担当者の来訪もあるなど、関連する行政の様々な分野の方々との連携を図りながら、利用者の安全安心な暮らしの提供に努めている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム かつひろの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引きやマニュアルの他、内部研修(虐待)にて共通認識をもち、危機管理対策をしている。日中は、居室・玄関には施錠せず、センサー設置により安全確保。夜間は防犯のため、ご家族同意のもと、施錠している。	毎月のカンファレンスに併せ、身体拘束防止・危機管理委員会を開催している。職員は、内外の研修を通して知識やスキルアップを図り、拘束ゼロを実践している。スピーチロックに気付いた際には、その場で注意しあっている。センサーの設置はないが、職員の工夫で足元に鈴をつけ、転倒防止や夜間の排泄介助に役立っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	日々のニュースや虐待の具体例を内部研修で話し合いを持っている。身体的・心理的虐待・介護放置・怠慢など。スピーチロック=言葉遣いにも留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2019年4/27まで成年後見人制度1名利用。随時、成年後見人と電話連絡していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご利用者及びご家族に対し、契約書・契約書別紙・重要事項説明書を説明し捺印頂いている。また、やむを得ず契約解除になる場合もご家族と話し合い、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、定期的にご利用者及びご家族にアンケート調査を実施し、意見や要望を聞く機会を設けている。面会時・行事の際、ケアプランを説明する際にも要望を聞いている。	行事や利用料支払などで家族が来所した際には、担当だけではなく職員誰にでも声がけしていただいている。介護記録や写真を見ながら生活状況を説明したり、毎年、定期的に利用者・家族アンケートを行っているが、運営に関連する意見は出されていない。利用者からは、地域ならではの「げんべた」が食べたいとの希望があり、職員は利用者に教えてもらいながら一緒に作っておやつにするなど、可能な限り希望に沿った対応を行う仕組みが出来ている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつひろの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ISO9001の中で、毎年、改善研究テーマを決めてスタッフ全員で取り組んでいる。「緊急時の対応」「健康な生活の継続」など。食中毒予防のため、冷蔵庫・冷凍庫の温度管理している。	職員会議の場だけではなく、業務中を含めいつでも意見等を出しやすい職場となっている。意見要望については、全職員で協議・確認・共有している。休んでいる職員の補充方法について、職員を増やす或いは何か工夫ができないかなどを職員で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課に取り組んでいる。理事長は「MR 経営者との懇談会」(年1回)運営推進会議(2ヶ月に1回)職員会議(月1回)に参加し、状況把握と対策に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「個人教育管理簿」「法的有資格者名簿」でスタッフの力量が確認できる。改善研究は、法人内で年度末に発表会を行っている。内部・外部研修に参加し、スタッフのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は、新型コロナウイルス感染予防のため、定例会等の研修会はない。市内のグループホームのケアマネより加算などについて問い合わせあり、随時、電話対応している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	随時、電話相談対応。市役所福祉課や県立病院医療連携相談室や居宅ケアマネの勧めで見学・申し込みに来られる。ご本人・ご家族の困っていること、不安な事に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡調整を行い、ご利用者及びご家族の不安解消と状況把握に努めている。面接後、お断りされたが、1週間後、再び電話がきて、入所希望したいという方もいた。ご家族も入所と自宅介護で迷っている感じが見受けられた。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム かつひろの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ある方は、息子さんから「グループホーム入所に対して気持ちの整理がつかない」ということで、特養のショート利用している間に入所を考えていただき、入所判定会議後、特養のショート利用してから自宅より入所した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを念頭におきながら、ともに過ごしていくことを心がけている。食事作りや季節の行事はどのようにすればよいかご利用者の意見を聞きながら行っている。(山菜の灰汁抜きなど)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料請求書を郵送する際は、担当者がご利用者の状態報告・行事予定を手書きで送付。面会時は、ケース記録を閲覧していただく。今年の敬老会は、ご家族には案内状を出さず、ご利用者・スタッフのみ出席。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院の際、近所の方に話し掛けられたり、馴染みの人や場所との関係を継続している。ご本人の希望があれば、自宅訪問やお墓参りに出掛けている。食材の買い出しに地元スーパーへ外出。	馴染みの関係は年々少なくなっている。コロナ禍であるが、馴染みの床屋さんに出掛ける方もいる。職員は、利用者の会話からヒントを得て、記録し職員間で共有しながら、馴染みの発見やその継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士で実家の話をしたり、ご利用者が食堂の椅子を引いてあげたり、スタッフが見守りすることで「家族」という雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族の要望を聞いている。隣接の特養に入所されたご利用者やご家族と挨拶をかわし、関係の継続に努めている。		

事業所名 : グループホーム かつひろの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の協力のもと、センター方式を活用し、馴染みの暮らしの情報を収集。夫がいないことを不安に思うご利用者に対しては「夫は入院中」とスタッフ全員で返答を統一している。	センター方式だけでなく、普段の声がけや利用者へ寄り添った介護、家族の協力を通じ、それぞれに「猫が好き」など、好きな事やモノ、出来ること出来ないことなどの細やかな把握に努めている。ほとんどの利用者は、言葉で伝えることが出来、職員は、寄り添いながら話に耳を傾け思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、ご本人やご家族から生活歴や馴染みの暮らし方などセンター方式を活用し、把握。ご本人のできること・得意なことを把握し、情報を共有。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間アセスメントを用いて、生活リズムの把握。ご本人のできそうなことを見極め、潜在能力を引き出す。自宅では調理していなかったご利用者も包丁を持って食事作り・下拵え手伝っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを実施。現在の状況(医療面・生活面)や課題を把握しながら、ケアプランを作成。初回・介護保険更新時期には、ご本人・ご家族とともにサービス担当者会議実施。入院した際は、担当の看護師・主治医の意見も聞き、早期退院に向けて病院のカンファレンスにもケアマネ参加している。	居室担当が日々の記録とモニタリング資料を作成している。カンファレンスで職員は、当事者意識をもって意見やアイデアを出し合い、プランの作成に関わっている。定例の見直しは3ヵ月毎、容態急変や入居間もない方のプランは、随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個別ケース記録に記載。状態に著しい変化がみられた場合は、(入院・退院)随時、サービス担当者会議を開催し、ケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の重度化により、ご家族より今後が不安と訴えがあった場合は、特別養護老人ホームの申込みを勧めている。また、医療が必要な場合は病院の医療連携相談室と連携を図っている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム かつひろの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、地域との交流は少ない。反町の郷内の保育園の園児との交流はある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は在宅より継続。ご家族やスタッフの付添いで通院。現在の状態を主治医に報告。スタッフが通院した際は、即ご家族へ報告。通院報告書を作成している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっており、入居前からの変更は無い。受診には家族が同行し、日々のバイタル・健康状態等の詳細なデータを家族に託し、受診に役立てている。病院から直接電話をいただくこともあり、連携は密接である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化みられた場合は、併設特養の看護師に連絡・相談を行い、適切な対応ができるよう努めている。 8/22 ご利用者急変し、救急車要請した。8/27 ご利用者40℃熱発し、反町の郷看護師と一緒に県立病院にリクライニング車イスにて搬送。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、「在宅生活情報シート」を医療機関に提出し、医師や看護師に情報提供している。スムーズに退院できるようカンファレンスへご家族とともにケアマネ参加している。県立病院の地域医療福祉連携室に電話連絡し、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師が確保できないため、看取りケアは困難と考えているが、看取りに至るまで、出来る限り介護している。4/10 ご家族の希望で緩和ケア病棟に入院。4/24 逝去。8/22 救急車で搬送。9/1逝去。認知症の方は、入院しても点滴除去・興奮・不穏などで退院するケースが多い。ご家族の要望・希望を聞きながら、柔軟に対応していきたい。	看取りは困難としながらも、主治医等との連携を図るなかで、事業所では、看取りに至る直前まで、家族等の要望にしっかりと耳を傾けながら介護している。希望に沿って緩和ケアのある病院にお願いするなど、家族からは、ぎりぎりまでのケア対応に感謝する言葉をいただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人マニュアルをもとに急変時の対応について職員会議の際、確認。8/22 チョコレート色の嘔吐物あり、救急搬送。9/1 逝去。内部研修も実施している。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署立会いのもと避難訓練を実施。2020年2/1～反町の郷に引っ越し。3/31 避難訓練実施。台風の際は、人首川氾濫を想定して発電機の動作確認・非常袋の確認・人首川の水位の確認などご利用者が速やかに避難できるよう工夫している。	例年、避難訓練(火災・夜間想定)を2回実施し、とりわけ昨年度は、市役所の全面的な協力得て、水害対策訓練に取り組んでいる。地域の防災協力体制については、運営推進会議のメンバーを始め、地域の方々11人を防災協力員として委嘱し、万全の対応を取れる仕組みが出来ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の意思を尊重し、プライバシーに配慮しながら声掛けしている。ご利用者それぞれ得意なこと(踊り・歌・洗濯物たたみ)行っている。お互いに気になる声掛けに関しては、随時話合っている。	経験豊富な先人として敬い、さん付けで声がけしているほか、排泄誘導も小声で行なうよう配慮している。生活歴を参考にしながら、ジャガイモの皮むき、茶碗拭き、布巾縫い、洗濯物たたみなど、好きなこと得意なことに携ってもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「箱ティッシュがほしい」「手洗い石鹸がほしい」と希望があった時は、すぐ買い物に出かけている。スリッパや衣類も本人と買い物に出かけ、選んでいただく。(自己決定)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	役割や生きがいを見いだせるよう支援。生活リズムを整えるため、一日の概ねのプログラムはあるが、一人ひとりのペースに合わせてゆっくり生活していただく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室に出掛けて散髪している。敬老会や新年交賀会など行事の際は、お化粧をし、おしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や畑で収穫した野菜を使用し、季節感のある献立をたてている。筍をいただいた時は、筍ごはん・筑前煮など献立を変更。調理の際は、下拵え・味付け・盛り付けは、ご利用者に手伝っていただく。	お裾分けの野菜や果物を含め、利用者のリクエストを聞きながら献立を立てている。買い物は職員が行い、下拵え(アク抜き、皮むき)、配膳・下膳、茶碗洗いやテーブル拭きなどには利用者がそれぞれ関わりながら、職員と一緒に笑顔で和やかに会話しながら食べている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつひろの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者が熱発した際は、お粥に変更。カレーライスが苦手な方には、肉じゃがを提供。焼きおにぎり・味噌が嫌いな人には代替え。牛乳が苦手な方にはコーヒーなど提供している。食事量が少ない方にはご飯も少なめで提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがいや食後の歯磨きを実施。本人が「歯磨きは一日1回でいい」と言う方にも時間をおいて声掛けし、歯磨きしていただくよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握。キョロキョロする際は、尿意・便意のサイン。夜間、ナースコール押さず、ベッドに端座位になっている方いる。本人に了解を得て履物に鈴をつけてトイレ誘導している。	利用者は、リハビリパンツなど何らかの介護用品を使用しているが、職員の適時適切な声かけ誘導によって、昼夜ともにトイレで排泄している。病院を退院後、職員の支援を得て、自力歩行によるトイレ排泄が出来るまでに改善・回復した方もあって、職員の自信とスキルアップに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立には、野菜を多く取り入れ、乳製品(牛乳・ヨーグルト)も毎日提供。牛乳が苦手な方にはオリゴ糖を入れたり水分補給の工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	菖蒲湯やゆず湯など季節感を味わって頂けるよう工夫している。バイタル測定後、二日に1回入浴。本人の気持ちを尊重し、拒否があった場合は翌日に入浴し、清潔保持につなげている。	浴場が少し広くなり、移転前と異なってリフトが付いており、跨がなくても入れるようになった。週に2、3回入浴している。入浴の嫌いな方には、決して無理強いせず、気長に寄り添いながら、改めて声掛けしている。利用者は、1人で静かに入浴したり、歌を口ずさんだり 職員と会話をして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く眠っていただけるよう冬季は湯たんぽ提供する方もいた。眠れない時は、スタッフと話をしながら、ココアなど温かい飲み物を飲んでいただき、安眠できる環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬を遅番者が分包し、食前・食後に服薬介助している。飲み忘れや分包ミスがあり、夕食・遅番・夜勤者二名で確認。処方されている薬と作用を確認し、予防対策をとる。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつひろの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や得意なことが発揮できるよう役割を見つけ、感謝の気持ちを伝えている。(食事作り・茶碗拭き・テーブル拭き・広告の箱折りなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材・日用品の買い出しに外出。通院に合わせてご家族と食事をされる方もいる。新型コロナウイルス感染予防のため、現在は外出・外泊控えているが、それまでは、自宅へ外出・外泊した方もいた。7/10通院日、ご家族とあじさい園に行った方もいる。	コロナ禍のなか、天候や利用者の気分と相談して散歩、外気浴などで気分転換をしている。今は、通院に合わせた家族との食事等が、家族との強い絆に繋がっている。コロナ禍が収まったら旅行を企画することも考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を一時預かると興奮した方は、(盗られ妄想あり)本人の希望で財布自己管理している。入浴時に財布を確認している。その方は退所時まで、自分で財布を持っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夫から手紙がきて、本人は手紙を楽しみにしている。娘さんと電話ができるよう支援している。娘や孫に手紙を書いてほしいと便せんセット持ってきたため、スタッフ見守りしながら手紙書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはソファをおいたり、椅子を置いて、一人でも複数でも過ごせるよう工夫している。もちつきや敬老会・踊りの慰問など季節の行事の写真を飾って自由に見て頂いている。	2月の移転に際しては、長年住み慣れた環境が出来るだけ変わらないよう、使い慣れたものを持って来るよう配慮した。共用スペースでは、車椅子の方が動きやすいよう、席は相性の良い方を隣になるよう配置している。季節に合わせた装飾にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、和室(炬燵の間)・リビング・食堂など思い思いに過ごせる場所を用意している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつひろの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	私物の持ち込みは自由。ご利用者によって、家具・テレビ・夫の写真・娘・孫の写真など自宅より持参し飾って本人が落ち着けるよう工夫している。	居室は以前より広く、ベッドと洗面台、トイレとクローゼットが備え付けられている。ベッドはセミダブルサイズでエアコンも完備している。利用者それぞれに使い慣れた、鏡や時計を持ち込み、家族やペットの写真を飾り、安心して住める環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室などがわかりやすく大きく表示している。居室ごとに洗面台があり、洗顔や歯磨きがスムーズに行えるよう対応している。腰が曲がっている方には、居室前、目の高さに名前を表示。		